

2022年 7月 7日

第33期（2022年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成  
国内活動助成申請書

下記の通り、プロ・ナトゥーラ・ファンド助成の活動助成を申し込みます。（○新規・継続）

## 1. タイトル

生息地住民による国内希少野生動植物種エラブオコウモリの広域的な保全・啓発活動

## 2. 申請団体

団体名	エラブオコウモリ保全・啓発活動プロジェクトチーム		
申請代表者 氏名	ヤグチビマサ	生年 月日	1942年9月7日 [79]
	山口英昌		
所属機関 ・役職	子々孫々の口永良部島を夢見る えらぶ年寄り組（略称 えらぶ年寄り組）・会長		
住所	〒891-4208 鹿児島県熊毛郡屋久島町 1232-3		（○自宅・職場）
電話	自宅・職場：	携帯電話：090-5886-2537	
e-mail	yama3hide3@gmail.com	URL	<a href="http://kuchinoerabu-jima-senior.org">kuchinoerabu-jima-senior.org</a>

## 3. 活動の種類（いずれか一つ選択してください）

- 野生動植物種や植生、動物分布、生態系、地形や水文環境などの保護活動
- 自然保護教育や環境教育の推進、自然保護思想の啓発のための活動
- 自然保護を訴えるパンフレット、書籍、映像コンテンツなどの製作
- 自然保護を訴えるシンポジウム、セミナー、イベントなどの開催
- その他

## 4. プロジェクトの目的（200字程度）

国内希少野生動植物種であり天然記念物でもあるエラブオコウモリは、口永良部島に多く、トカラ列島にも生息する。しかし近年、個体数の減少とともに近交弱勢が危惧されている。本亜種の保全には、生息地である口永良部島およびトカラ列島を含めた住民参加の視座がかかせない。そこで、両地域住民が研究者の調査研究に協力するなかで、自らも学びつつ保全・啓発活動を実施することで、本亜種の絶滅阻止に資することを目的とする。

## 5. 助成申請額

100万円

この申請書は、プロ・ナトゥーラ・ファンド助成の審査にのみ使用し、その他の目的では使用いたしません。公益財団法人自然保護助成基金個人情報保護に関する基本方針ののっとり、適切に取り扱いいたします。

# プロジェクト計画書（1）

## 1. 活動の意義

(1) 本活動の自然保護上の意義について、要点を100字程度で簡潔に枠内にお書きください。

国内希少野生動植物種に指定されているエラブオオコウモリ生息地の住民が中心となり、持続的な保全・啓発活動を実施し、同時にDNA情報を把握する研究に寄与することは、本亜種の絶滅を阻み、生物多様性保全を図る一助となる。

(2) 本プロジェクトを申請するのに至った背景について詳しくお書きください。

### ◆申請に至るまでの活動

エラブオオコウモリの生態調査・研究は、国崎敏廣氏や船越公威氏によって口永良部島を中心に行われ、すでに大きな学術的成果が挙げられている。

その中で、申請者グループは、口永良部島の島民有志で「えらぶ年寄り組」を2012年に立ち上げ、地元住民の立場からエラブオオコウモリなど島の動植物の保全・啓発活動を行ってきた。2014年度～2017年度には環境省グリーンワーカー事業で「口永良部島の動植物生息・生育状況把握事業」を、2017年度～2019年度には、屋久島環境文化財団の「屋久島生物多様性保全 研究活動奨励事業」を受託するなかで、エラブオオコウモリなどの生息実態を調査した。さらに2019年～2020年度には環境省の「エラブオオコウモリ保全推進事業」を受託し、本亜種の被植樹、食痕、頭数、食痕からのDNA分析など生態調査を行うとともに、看板や観察ガイド小冊子などの作成、見学会、講演会の開催など啓発事業を実施してきた。

### ◆広域的な保全・啓発の必要

一方、エラブオオコウモリは口永良部島だけでなくトカラ列島にも生息する。本亜種の絶滅を防ぐには、口永良部島だけでなく生息域であるトカラ列島を含めた広域的な取り組みが欠かせない。しかし、受託してきた屋久島環境文化財団や環境省事業では、口永良部島の域外に調査や保全・啓発活動を拡大できない制約があった。そこで、貴・（公財）自然保護助成基金のプロ・ナトゥーラ・ファンダ助成を受けることで上記の制約を克服し、生息地の住民が主体となった広域的な保全・啓発活動を行うことを目論んだ。

### ◆再度の申請

なお、本申請と同様の計画は31期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成に採択されたが、コロナ禍でトカラ列島への渡航が禁止されたため、実施を延期し、やむなく助成を返上した経緯がある。2022年4月にトカラ列島への渡航が解禁され再申請の道が開けた。そこで、本申請に先立ち、「えらぶ年寄り組」の独自事業として、今年2022年5月にトカラ列島（中之島と悪石島）を歴訪し、生息現場の確認を行うとともに、協力者との面談を行った。その結果、本申請計画の実施可能性を確認するとともに、たとえコロナ禍の状態が悪化して渡航不可能となっても、協力者との遠隔協働作業で本プロジェクトを推進できる手ごたえを得た。

(3) どこで、どのような活動を行うのか、具体的にお書きください。可能であれば、活動対象地域の地図を添付してください。

### 1) 地元住民の意識調査A

エラブオオコウモリが生息する悪石島と中之島、平島などで、住民を対象としたアンケートを実施し、本亜種に対する住民意識を調査する。すでに実施した口永良部島でのアンケート結果とを比較検討する。

### 2) 啓発資料作成・配布B

エラブオオコウモリ観察ガイド（リーフレット）を作成し、悪石島と中之島・平島などの住民に配布するとともに、学習・講演会のための資料とする。

### 3) 啓発活動C

トカラ列島で本亜種の生態に関する学習・講演会を実施する。

### 4) 地元住民による研究者支援D

研究試料（食痕や糞）を地元住民が収集することで、本亜種各個体群の遺伝的多様性の差異をテーマとする研究者を支援する。口永良部島データとの比較検討を行い、その研究成果を本亜種の保全の基礎資料とする。

(4) 昨年度からの継続申請の場合は、継続理由もお書きください。

## プロジェクト計画書（2）

### 2. プロジェクトの計画

(1) 本活動における具体的な到達目標をお書きください。

1) 生息地住民による本亜種保全のためのネットワーク構築

トカラ列島と口永良部島の住民との間で情報交換を密にし、本亜種の生息状況を把握する持続的な人的ネットワーク体制を構築する。

2) 地元住民を対象とした本亜種の保全意識の啓発・向上

本亜種が、現在も生息確認されている悪石島と中之島、平島などの住民を対象として、本亜種、被食樹、食痕などの見分け方など、今後の継続的な保全活動に必要なスキル向上を図るとともに、住民や観光客に本亜種を案内できる人材を育成する契機とする。

3) 地元住民による研究者支援

研究者を支援するための研究試料（食痕、糞など）の収集を行い、今後の保全活動の基礎資料を獲得する。

(2) どのように上記の目標をクリアしていくのか、活動手法をご説明ください。

1) 生息地住民による本亜種保全のネットワーク構築

各島のキーパーソンを探し、SNSを活用した遠隔連絡体制の構築を図る。

2) 生息地住民を対象にアンケート調査を行い、本亜種に対する認識把握

アンケートにより、住民意識の実態を把握するとともに、本亜種存在の認識を高め、保全意識を向上する。

3) 啓発活動のための講演会と情報交換

本亜種生態の学習・講演会を開催する。すでにこれらの活動を進めている口永良部島島民との情報交換の場を設ける。

4) 啓発のための、情報提供と資料作成

これまでの口永良部島の体験と活動を紹介し、作成した観察リーフレットを配布するとともに、トカラ列島での保全・啓発活動に役立ててもらおう。

5) 地元住民による研究者支援

本亜種の各個体群の遺伝的多様性の差異をテーマとする研究者を支援する。研究者に代わり研究試料を収集ができる人材の養成とスキルの向上を図る。本亜種の食痕や糞など採取方法の講習会を開催する。試料収集を、啓発の一つと位置付ける。研究成果を、地元の保全活動に還元する。

6) 十島村（トカラ列島）の協力呼びかけ

地域住民による本亜種の保全・啓発を行政に負担をかけずに行う意義の理解を求め、本プロジェクトへの協力を呼び掛ける。

(3) 予算計画について、特記すべき点があれば、お書きください。一つの費目への比重が大きい場合などは、説明してください。

#### コロナ禍の状態が悪化した場合

今回は申請に先立ち予備的な渡航をして協力者とも面談も終えている。その結果、たとえ渡航不可能となっても、トカラ列島の協力者との遠隔的な協働作業で本プロジェクトの重要部分は推進できる手ごたえを得ている。前回は返上したが、今回は予算の再編をしても、本申請を実施する柔軟な対応を考えている。たとえば、プロジェクト計画書（1）－（3）のA,B,Cは遠隔で十分実施が可能であり、Dについても、コロナ状況回復を待つにしても、地元島民のモチベーションによっては遠隔実施が可能であると考えている。

(4) プロジェクトメンバーについて特記すべき点があれば、お書きください。

## プロジェクト計画書（3）

### 3. 申請グループの活動戦略と、今後の活動展開

- (1) 本申請グループは、自然保護のためにどのような目標や戦略をもって活動しているのか、100字程度で簡潔にお書きください。

申請メンバーが所属する自然保護グループ「えらぶ年寄り組」は、生物圏保存地域の登録条件である3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）を具現化することが、地元住民の責務と考えて活動している。

<注>

口永良部島は、全島区域が2007年に国立公園、2016年には生物圏保存地域に拡張指定された。

- (2) 本プロジェクトにつながるこれまでの活動実績があれば、その詳細をお書きください。また、このプロジェクトを終えた後にどのように活動を展開させていくのかについてお書きください。

#### ◆活動実績

申請者である「子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組」（略称 えらぶ年寄り組）は、住民有志で立ち上げた環境保全グループである。表1に、保全活動の対象とした動植物を示した。また、これまで受託した事業と助成を表2に示した。

表1 研究者の指導の下、あるいは共同で調査した項目

対 象	調べたこと
ウミガメ（向江浜）	上陸・産卵調査（中絶）
アオウミガメ（美浦）	水中カメラで個体識別・生育調査
エラブオオコウモリ	頭数、食痕調査、DNA
ヤクシカ	頭数推定
ノヤギ	頭数推定
林床植生	林床植生回復調査
タカツルラン・ムヨウラン	生育調査
ラン類・希少な植物（絶滅危惧種など）	生育調査

表2 受託した事業や助成

年	調査・学習の内容	支援・助成団体
2013-14	ウミガメ保護・監視業務	屋久島町
2014-17	口永良部島における動植物の生息・生育状況把握事業	環境省グリーンワーカー事業
2017-19	屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業	屋久島環境文化財団
2019-20	エラブオオコウモリ保全推進事業	環境省
2020	令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業 第31期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成「天然記念物エラブオオコウモリの保全・啓発活動」<返上>	環境省 自然保護助成基金

#### ◆プロジェクト終了後の活動

プロジェクト終了後も、トカラ列島と口永良部島の住民がネットを活用して情報交換し、エラブオオコウモリの広域的な保全と啓発活動を行う。また、その成果を観光客への案内コンテンツとして利活用したり、研究者への継続的支援を行う。

## 年間スケジュール(1)

時期	内容とその詳細	助成金 支出概算
2022年10月	準備作業。SNSを活用した連絡網の構築。 第1回トカラ渡航(1名、悪石島および中之島)、ロ永良部島の活動紹介とキーパーソン(現地協力者)との懇談、アンケート企画の現地説明、糞・食痕試料採取、採取方法の講習、DNA講演会	1名旅費現地4泊90,000円、アンケート回収謝礼120,000円 試料採取指導料60,000円 試料採取謝金100,000円、リーフレット印刷費60,000円
11月	アンケート作成と配布・回収の依頼 糞・食痕など試料のDNA分析	文具・トナーカートリッジ・バッテリーパックなど消耗品費45,000円
12月	エラブオオコウモリ観察用リーフレット原稿の作成	A講師旅費、講演料謝礼145,000円 会場準備など謝金35,000円
2023年1月	アンケート集計と分析	
2月	観察用リーフレットの印刷発注	
3月	講演会の開催の準備	
中間報告書の提出		
4月		1名旅費現地4泊を2回分180,000円
5月	第2回目のトカラ渡航、講演会の開催、糞・食痕試料採取、採取方法の講習	講演会・B講師謝金50,000円
6月	糞・食痕など試料のDNA分析	B講師旅費30,000円 会場準備など謝金35,000円
7月		送料など50,000円
8月	第3回目のトカラ渡航、糞・食痕試料採取、今後の保全・啓発活動の相談	
9月	トカラ島民とネット会議、報告書作成の準備	
助成期間の終了		
10月	報告書執筆	
11~12月	成果報告書・会計報告書の提出	成果発表会出席旅費※対面希望の場合計上してください。自己資金の場合は記載不要です。

## グループの構成員

氏名	所属	役職	分担*
山口英昌	えらぶ年寄り組	会長	責任者（申請者）
後藤利幸	同上	副会長	副責任者
大塚四雄	同上	会計	会計責任者
山口米子	同上		実施作業補助
石黒誠	同上		実施作業補助
島清志	同上		実施作業補助

\*プロジェクトの上で担当する役割を記入。（責任者、副責任者、会計責任者を必ず決めてください。）

## これまでの活動実績

本申請に関連する書籍やパンフレットの出版、イベントの開催記録などがあればお書きください。

### ◆本申請に関連する報告書、投稿論文および出版物

表 関連する報告書や投稿論文

年度	調査・学習の内容	支援・助成団体
2014-17	口永良部島における動植物の生息・生育状況把握事業 報告書	環境省グリーンワーカー事業
2017-19	屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業 報告書	屋久島環境文化財団
2019-20	エラブオオコウモリ保全推進事業 報告書	環境省
2020	令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業 報告書	環境省
	エラブオオコウモリ観察ガイド（小冊子およびリーフレット）作成	環境省
	エラブオオコウモリ観察看板の作成・設置	環境省
	山口英昌（2020）、和名「エラブオオコウモリ」に至る道—学術研究先達の足跡をたどる—, 屋久島学（屋久島学ソサエティ会誌）, 7, 101-113	屋久島学ソサエティ

### ◆利活用としての実績

2020年には、令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費を獲得し、「屋久島国立公園口永良部島における動植物保全推進活動の成果を活用したサステイナブル・エコツアーによる離島再活性化」事業を実施した。創成したツアーでは、これまで「えらぶ年寄り組」の活動が観光客へのエラブオオコウモリの案内や、修学旅行生誘致の学習コンテンツとして生かされた。

## 助成金取得状況

1. 現在、同様のテーマで他財団や公的機関の助成金を申請していますか。

機関名	テーマ	金額(万円)
	申請しておりません。	

2. 現在、第33期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成の別の申請に、構成メンバーとして申請していますか。

カテゴリー名	タイトル
	申請しておりません。

# アンケート

(アンケートの記述のない申請書は受け付けません。記述内容は選考に影響しません。)

I 申請代表者の本助成への応募は何回目ですか。

初めて ・ 〇2回目 ・ 3回目 ・ 4回目以上 ・

グループとしては応募経験あり ( 1回) ←応募回数をお書き下さい。

II 過去に、申請代表者は本助成の助成金を得たことがありますか。ある場合は回数をお書き下さい。

ない ・ 〇1回 (辞退) ・ 2回 ・ 3回 ・ 4回以上

グループとしては採択経験あり (1回辞退) ←これまでの採択回数をお書き下さい。

III 今回の助成の詳細は、何で知りましたか。

当財団のWebページ/Facebook ・ 〇助成金情報サイト ・ メーリングリスト ・

友人/知人から ・ その他 ( )

IV 募集要項について、気になった点、わかりにくかった点があればお書き下さい。また、申請書で書きにくかった項目があればお書き下さい。

疑問点はメールと電話で問合せで解決できました。

V プロ・ナトゥーラ・ファンド助成に関するご意見・ご要望があれば、お書き下さい。

特に、ありません。

VI プロ・ナトゥーラ・ファンド助成で、今後新たに取り組むと良いと思われる自然保護の課題があれば、お書き下さい。

VII 助成採択後、成果発表会の開催形式はどのような形態を希望しますか。

対面 ・ 〇オンライン ・ ハイブリッド (対面+オンライン)

オンラインでの成果発表とし、上京旅費を調査費用として使いたい。

ご協力ありがとうございました。